

会議の結果

件名	令和元年度第5回社会教育委員会議定例会
日時	令和2年1月22日（水曜日） 午後3時～5時00分
場所	田辺市文化交流センター「たなべる」 2階大会議室
出席者	○社会教育委員 久保委員、松場委員、近藤委員、井潤委員、小山委員、西川委員、尾崎委員 三宅委員、加藤委員 計9名 (欠席) 山崎委員、柳川委員、稲垣委員、九鬼委員 ○事務局 宮崎教育次長、狼谷生涯学習課長、北尾生涯学習推進係長、尾崎公民館係長、野口事務員、 澤本事務員 計6名

1. 教育次長あいさつ

2. 議長あいさつ

3. 説明事項・報告事項

- (1) 令和2年度当初予算の見積について
- (2) 田辺市生涯学習フェスティバル2019の結果について
- (3) 令和元年度「成人の日」記念式典の結果について
- (4) 第24回田辺市民駅伝大会・第37回田辺市子どもクラブ駅伝大会について
- (5) 第19回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について
- (6) 第46回新春田辺長距離走大会の結果について
- (7) 令和元年度田辺市文化事業「大阪交響楽団名曲セレクション2020」について
- (8) 令和2年2月～3月の行事予定について

以上の項目について、事務局から一括して説明を行った。特に質問・意見等はなかった。

4. 協議

- (1) 人材育成講座「まちづくり市民カレッジ+（プラス）」の第2回講座実施結果について、事務局より説明を行った。

【質疑応答・主な意見】

(議長)

事務局から説明がありました、人材育成講座「まちづくり市民カレッジ+（プラス）」第2回講座実施結果について、なにかお気づきの点とか、もっとうちの方がよかったとか、いろいろな意見ご発言いただけたらと思うんですけどもいかがでしょうか。

(A委員)

テーマがおもしろそうでしたというのは、やっぱりタイトルは大事なんだなあ。激白というところに食いついてくれたのかなと思います。

(議長)

今回、新聞を見て応募された方1名だったということだったんですけど、身近な人にこういうのをやってみすという話をした時に、新聞で見たという人は結構いたので、やっぱり効果があるのかな。継続してやることで効果出てくるということもあると思うんですけども。

(B委員)

先ほど企画会議で出た意見としては、参加された方の声に、一時保育を設けてもらえたら、という意見があったので、毎回ではなくとも、テーマによっては検討していかなければいけないなという話がありました。

(A委員)

我々は、田辺好きをつくるというテーマで、市民カレッジをやってきたわけですけども、今回に限っては、まちの人にどう溶け込むか、という話が実践されている方から出て、自分が動かないといけないと聞いている側が感じてくれたという点は、社会教育委員としての、ひとつの大きな成果だったし、いい内容だったなあと。こっちが想定しているのと違うテーマで盛り上がって、いい学びがあったというか、引っ越してきた先でのその地域との関わり方みたいなものを学ぶ機会にはなったなあとと思います。第二弾の開催という意見もあるんですけども、この人材育成講座の枠でやるのか、全然違う枠でやってみてもいいんじゃないかなというのは、すごく感じました。

(議長)

C委員、D委員、E委員の3名は当日おられなかったんですけども、何か感じるところはございますか。

(D委員)

来ていただいた方は、タイトルからも、同じ境遇の人が多かったと思います。では今度、全然違う境遇の、例えば私のように、田辺で生まれ育った人との交流をどう作っていくのかなというのが、これからの展開なのかなという風には感じております。

(E委員)

今回の「移住者の妻」のみならず、当事者同士がつながるってなかなか大事な話だと思うんです。当事者だからわかる辛さっていうのも、書いていましたよね。同じ境遇だと気持ちが通いやすい、みたいな。ともすれば、当事者同士ってつながっているようでつながっていないかったり、つながっていないようでつながっていることもあるんですけど、こうやって「移住者の妻」っていう看板をあげてやると、そういう人が来られて、同じ想いで田辺のまちのことを見れるという、当事者がつながるこの構造自体はすごい良いことだなと。だいたい日本どこでも当事者運動みたいなものはあるんですけど、最近それが弱くなっているところもあるので。当事者運動って、課題型はすごく進むんですけども、移住者ってなかなかテーマとして、厳しい課題ではないけれども、当事者にとってはやっぱり課題だと思うんですね。そこを社会教育がつなぐということで、社会教育でやる大事さというのを、アンケートから感じとらせていただきました。

(C委員)

「移住者」は、私は「異従者」という言葉に置き換えているんですけども、どういうことかという、北海道のように寒いところ、沖縄のように暑いところだと、気候に従っていく。食べ物もそうですよね。採れるものも違うし、お腹に合う合わないもあるでしょうし、問題はここなんですけれども、やっぱり人なんです。ついてくる奥さんは旦那さんについてきているから、あとは旦那さんを盾に、人であろうが、地域であろうが、生きていかれるつもりでおられていると思うんです。今度は、受けてる人が、それに対して、どれだけ胸襟を開いて、受けてあげるか。何を主たる目的として来られてるかということもあると思うんですけども、受けてる側がうまく手を広げて柔軟に受けてあげなければいけないのかなと思いました。

(A委員)

今回、パネリストの世代が幅広かったのがよかったと思います。バランスがすごくとれていたと思います。

(E委員)

外でやってもいいかもしれませんね。東京とかで、移住したという人の話はあると思いますけれど、連れられて行った当事者の声っていうのは、都会にはあまりないかもしれないですね。

(議長)

それではとりあえず、また第2弾を希望するというお声もありますので、それについては、企画運営委員会の中でまた皆さんとご相談させていただきながら、進めさせていただきたいと思います。

(2) 人材育成講座「まちづくり市民カレッジ+ (プラス)」第3回講座について、事務局より説明を行った。

【質疑応答・主な意見】

(D委員)

集客についてなんですけれども、もう少し後援を広く呼びかけるということはないのでしょうか。例えば、紀伊民報にも後援をもらえれば、お手伝いできるチャンネルは増えるかなと思うんですけれども、紀伊民報だけというのは、色々な兼ね合いから難しいというのであれば、他の報道機関も含めて、幅広く集めるということも有効ではないかなと思います。特に、今回定員100名で大きな会場のようなので、講師も外部から呼ばれるということなので、そういう風な検討をしても良いのではないかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。できると思うんですが、主催が田辺市社会教育委員会議という形であることや、詳細が決まってくる部分が遅いという中で、どこまで広げていけるのかという課題はあると思います。今後、後援を広げていくということは検討したらいいし、頑張っていきたいなと思います。

(議長)

社会教育委員会議として後援を依頼するというのは、特に支障はないのでしょうか。

(事務局)

社会教育委員会議も組織ですので、問題ないと思います。

(A委員)

あまり手を広げなくても、紀伊民報さんは入れておいたら、仰るような記事になりやすいと思います。

(議長)

新聞記事でも、広告でも、見てくれる人がいるので、紀伊民報さんにお問い合わせできるのであれば。

(D委員)

依頼を受けてからの話になってくると思うんですけれども、内容を見る限りは、値打ちのあるものについては、PRのチャンネルは増やした方がいいなと思いますので、その手段の一つとして、後援があるんじゃないかと考えています。

(A委員)

前回、平成29年度に川北先生が来てくださったときに、参加者が大勢来てくれていたのは、出席の動員をした

んでしょうか。

(事務局)

あの時は、それまでに人材講座を受けてくれた方々に、直接案内をさせていただきました。

(A委員)

値打ちのある話だとは思いますが、前回みたいな案内をして、来てもらったほうが良いのではないかと思いますけれども。動員して参加してもらうのも一つの手だと思います。

(事務局)

自治連の役員さんには、ぜひともという話はさせていただいております。

(A委員)

この間から小規模多機能自治は、この間から言葉としてよく出ているので、出来るだけ周知はしていきたいですね。

(事務局)

実は、この間、部長会の方でも話題にさせていただいているんです。市長の年頭のあいさつでも、地域力を高めていくことがポイントのひとつとしてありましたので、出来るだけ参加していただけるように、ということで話をしております。

(事務局)

紀伊民報への後援については、今後という形になるかと思えます。

(D委員) 今からでも間に合わないことはないんですけども、今後ということで良いかなと思えます。

(事務局)

田辺市の記者クラブからの報道依頼で資料を提供しておりまして、1月の16日付けで紙面に載っているんです。また、1月の17日付けで広告を掲載いただいております。ただ、今お申し込みいただいている10名の中で、広告を見たから申し込んだ、という方はいません。記事を見て申し込んだという方はいます。

(議長)

それでは、今回は、今後報道依頼をする際に、紀伊民報に後援を依頼する、ということでよろしいですか。また、2月2日、色々とお忙しいとは思いますが、また当日の運営よろしく願います。

(3) 人材育成講座「まちづくり市民カレッジ+ (プラス)」第4回講座について、北尾係長より説明を行い、講座のチラシ(案)について、澤本から説明を行った。

【質疑応答・主な意見】

(D委員)

ディスカッションのところは、一般参加者としては一番面白味のあるところではないかなと思うので、そこをもう少し伝わるようにしたらよいかなと思います。もちろん講演も重要ではあると思うんですけども、講演を聞くだけだと受け身になりがちなので、ディスカッションにも参加できるという部分を前面に出したほうが良いかなと思います。

(議長)

交流会には市長は残っていただけますか。

(事務局)

時間は取ってもらっているんですが、まだそこまでの話はできていません。

(C委員)

そもそもなんですが、私の最初のこの講座のイメージは、市長が市民の方に、伝えたい事を伝える、それを受けて、山下さんと市長とでトークセッションをしながら、一般の方も巻き込んで、ご意見があれば、市長がそれに答える、というような形で捉えていたんですけども、表紙を見ると、市長と山下さんが対峙して載っているので、どちらが主なかわからない。例えば、構成でいうと、市長が講演をして、その後トークセッションで二人がという形なんだったらいいですけど、これだったらわからないですよ。

(B委員)

講演とディスカッションの時間配分はどうするんですか？

(事務局)

講演を30分、ディスカッションを1時間でイメージしています。

(A委員)

基調講演はやっぱり固いですね。まちの魅力を語るわけですから、講演ではない。それぞれの感じる魅力を語ってもらうわけですから。

(E委員)

最初に市長の方から、問題提起というか、口火を切っていただきますので、少ししゃべっていただきます、みたいな形で、トークセッションという形でいいんじゃないでしょうか。

(C委員)

やっぱり、参加型にしないと、聞くだけだと面白くないです。市長に質問させるのかどうかというのは、色々あると思うんですけども。先ほど広告の件も話がありましたけれども、よほどでないとなんか新聞の広告というのはスルーするんですよ。記事で取り上げてもらう方が、皆さん目がいきます。それは、ビジュアルに訴求する紙面構成の違いだと、私は思っています。

(A委員)

前に事業をした時の経験からいうと、広告で出したものが売れている。なので、新聞を読んでいる人は、広告も見ている。欲しい人は、求めているところに載っていたら、見る。

(D委員)

広告を見る人は、広告を見たいという目で見るので、それに合っているものでないと、正直スルーですね。記事は、きちんとした情報がないかという目で見ます。広告はどうするのかというと、こちらでコントロールできるタイミングで出せるので、例えば備忘録みたいな形で、前に記事で紹介して、直前に広告で出すというような使い方ができます。

(事務局)

託児保育については、どうでしょうか。するのであれば、部屋だけは確保しないといけないですよ。

(B委員)

企画の段階では、次回からかなという話はあったんですけども。

(E委員)

南紀熊野サテライトの部屋を使っただいただいても大丈夫ですよ。

(A委員)

そしたら託児受け付けありで。

(C委員)

私なりにチラシを見て感じたのは、あなたに伝えたいというのは、市長さんが首長として、市民の方に伝えたいこと、それを受けて、参加した方々が伝えたいこと。山下さんは、ファシリテーター的にやるのかなと思っていただんですけど、話を聞いていると、市長と山下さんが対峙したような形に捉えられるので。

(A委員)

それでいいんです。山下さんから見たまちの魅力を語ってもらう。田辺のまちのことを誰よりも知っていますから。

(議長)

互いに、色々な良いところや、課題を語ってもらうというような形ですね。

(副議長)

そういう風に誤解する人がどれだけいるかという話ですよ。山下さんはラジオレポーターだから、話を聞く立場に見えてしまう。その構図を、このチラシで崩したいわけですよ。二人とも同じスペース・同じ分量でチラシに載っているけれども、タイトルが「あなたに伝えたい！まちの魅力」になっているから、あなたが山下さんに置き換わってしまっている。この「伝えたい」のところを、二人で伝えるんだという形にしたら、今日で決まると思うんです。

(B委員)

「私たちが伝えたい」とか。

(D委員)

個人的には、ディスカッションも見据えるなら、「伝えたい」というのは一方通行感があるので、「語りた」というような言葉のほうが良いのかなと思います。

(C委員)

単純に、「二人が語るまちの魅力」でも良いと思います。首長である市長、オールラウンドにあちこちを見て、彼女から見た目線と、突き合わせた話が皆さんに伝わって行って、そこから引き出したらいいいわけですよ。

(B委員)

これだけだったら、二人だけの登場で、ディスカッションできる場もあるというのが伝わりにくいような気がするんですけど。

(議長)

みんなで語ろうというようなことを、サブタイトルとして入れたらどうですか。二人が語るというのと、みんなも一緒に語りましょうということが加わるように表現したいんですよ。

(C委員)

「二人で語ろう まちの魅力」で、「あなたも」を入れるとかね。字面だけ合わせたらいいと思うんですよ。

(事務局)

登壇者というのが少し硬いので、二人のお名前と、会場の皆さん、というような形で。

(C委員)

そもそも、右左、どっちがどうなんですか。舞台でも下手・上手ってあるじゃないですか。

(D委員)

市長の写真の向きは決まっていますので、それに合わせる形になると思います。タイトルについては、「語りたい まちの魅力 トーク&セッション」みたいに付けたらそれでいいんじゃないでしょうか。いいのがパッと出てこない場合は、悩むのは割と非効率な場合もありますので、適当なところで落とすのがいいんじゃないかなと思います。

(B委員)

「語りたい 伝えたい まちの魅力 トーク&セッション」で、両方入れたらいいんじゃないですか。

(議長)

それでは、今日の話をお踏まえて、チラシ案の送付の方をよろしくお願いします。

(4) 令和2年度人材育成講座「まちづくり市民カレッジ+（プラス）」について、事務局より説明を行った。

【質疑応答・主な意見】

(議長)

今、事務局から、令和2年度の講座についてということで、大枠についてご説明いただきました。こちらにつきましては、次の定例会で審議・検討していきたいなと思いますので、講座の内容につきましても、色々なお考えをお話しただけならなと思いますので、よろしく願いいたします。

5. その他

(1) 次回定例会の日程について

次回定例会の日時は3月26日（木）もしくは27日（金）の日程で開催することとなった。

6. 閉会

副議長から閉会の挨拶を行った。